

# 令和2年度病虫害発生予察情報 予報第9号（10月）

令和2年10月12日  
発表：福島県病虫害防除所

## 1 野菜・花き

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害 （萎黄病、炭疽病）	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	発病株および発病が疑われる株は、見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、やや低かったが（－）、 <b>1か月予報（10月1日仙台管区气象台発表）によると、向こう1か月の気温は高く、日照時間は多い見込みである（＋）。</b>	①低密度時から薬剤防除を実施する。 ②抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 ③カブリダニ等天敵資材を放飼している場合は、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
<b>野菜・花き共通</b>	<b>ハスモンヨトウ</b>	<b>全域</b>	<b>—</b>	<b>やや多い</b>	①フェロモントラップの誘殺数は <b>やや多かった（＋）。</b> ②イチゴでの発生ほ場割合は平年並であった（±）。	①成虫の飛来、産卵は11月上旬頃まで続くので、発生状況をよく観察する。 ②防除が遅れると被害が大きくなるので発生初期に薬剤防除を徹底する。

注）予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。